

## 平成17年度知床国立公園利用適正化検討会議(第3回)

### 議事概要

平成17年9月26日 15:00～17:00

羅臼町公民館 大ホール

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ 環境省東北海道地区自然保護事務所長

#### 3. 議事

##### (1) 「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」(最終案)の検討

##### 「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」(最終案)事務局説明

#### 【質疑応答】

(座長) 資料に添付の「基本計画(最終案)修正の概要」にしたがって、ご意見をいただければと思う。

(中易委員) 個人的な意見であるが、P9からP13にかけて読みやすさを考えると計画の部分は計画でまとめ、検討のプロセスなどは別途まとめた方がわかりやすいのではないかと。プロセスの記述が急に過去形の文体で出てくるのが気になる。

(座長) 文末を過去形でなく、「～する。」と表現したらよいのではないかと。事務局としてはどうか。

(事務局) ご意見の通りであり、プロセス、計画の部分が明確になるよう文体の表現を書き分ける必要があると思う。

(座長) プロセス、計画の区別がつくように明確な表現に修正することとする。他に質問はないか。

(森林管理局) 各エリアの自然体験タイプの設定方法について質問したい。  
まずP10の図において自然条件、立地条件、利用の条件の3つから自然体験タイプの分類を設定するとある。  
しかしP35では、保全ランクの設定のみ自然条件の反映がされており、自然体験タイプの設定には自然条件が反映されていないように読み取れる。P10とP35との整合性がないのではないかと。

(事務局) 自然体験タイプの分類にあたって、保護規制計画及び自然環境については前提条件として使用しているが、現況と理想を分ける条件としては使用していな

いと考えていただければと思う。

保全ランクと自然体験タイプの評価の関係性は P 34 に整理している。

- (座長) P10の自然体験タイプの分類・設定の枠のうち、左を『理想的な姿としての「自然体験タイプ」の分類・設定』と書き換え、また右を『現状に基づく「自然体験タイプの分類・設定』と書き換えたらわかりやすいのではないかと。
- (事務局) そのように修正したほうがわかりやすいと思う。
- (座長) 他にはどうか。
- (小林委員) P 18 からそれぞれのエリア方針において、「利用のルールの下で」とあるが、記述されていたり、されていなかったりと混在している。何らかの理由があるのか。
- (事務局) 知床連山地域では P 16 に登山道沿線の共通方針として「利用ルールの下で」と記述しており、P 20 は登山道以外のエリアであるため、「利用ルールの下で」と追加記述している。
- (知床斜里町観光協会)  
知床五湖について、自然体験タイプが C から B へ変更されているが、当方としては利用者を少なくするというのには抵抗があり、利用は高いままにし、利用のコントロールをしていくとの表現にしてほしい。減らすことが目的という言い方は勘弁してほしい。
- (座長) トータルの数は減らさずに、たとえば、利用の波を作るような利用を進めていくということか。
- (事務局) P 24 にあるように五湖園地と五湖歩道で考え方を分けている。五湖トータルの利用者を減らすことは考えていない。問題のある五湖歩道について、利用の密度を減らし利用の質を高めていくことを考えている。
- (斜里町環境審議会)  
今回たまたま世界遺産で観光客が伸びているが、長く続くとは思えない。これまでの地元の努力を考えると自然体験タイプ C から B への変更というのは勘弁してもらいたい。
- (事務局) これまでの地元との協議の中で、五湖地区については歩道だけでなく地区全体で考えていこうという考えが整理されてきていると思う。そのような流れも踏まえ、P 24 にあるように知床の中心的利用拠点とすると記述している。歩道の利用者も地区全体で受け入れるという方針が記述されていると考えている。

(知床斜里町観光協会)

配慮はわかるが、できればタイプの変更はして欲しくない。

(事務局)

知床五湖は世界自然遺産地域の顔として世界的にも今後の動向が注目される地区と捉えている。熊の棲む豊かな自然の残る地区に大量の人を安全に受け入れるよう木道整備は現在進んでいるが、その協議を行う中で、周回の遊歩道は別の取り扱いが必要という方向性が地元からも示されてきた。

このような背景を踏まえると、知床の顔となる豊かな自然環境が残された地区で、高密度の利用をするようなタイプ設定はできないと考えている。環境省において、五湖は特に最優先すべき課題と考えており、今後地元の合意を得ながら具体的な検討を進めていきたい。

(座長)

基本的方向性をロ-1 からロ-2 に変更することはできないか。

(事務局)

ロ-2 は利用が少ない場所を対象と考えており、五湖地区には当てはめるのは難しい。

(森林管理局)

ホロベツ岩尾別台地の基本的方向性をイ-3 でなくイ-1 にした方が良いのでは。この地域は知床のコアの一つであり利用の誘導を計らないほうが良い。バッファの方に利用を分散するようにしたらよいのではないか。森林生態系のコアでもあり、利用の分散の誘導を図るのは避けるべき。

(事務局)

ホロベツ岩尾別台地は 100m<sup>2</sup> 運動地域が主な地域となっている。  
一部はコア地域(崖上部国有林)にかかっているが、大部分はバッファゾーンである。

(森林管理局)

コアが入っていないことがわかりやすいよう細分化するべきでは。

(座長)

混乱しないよう、コアではないことを示したほうが良い

(事務局)

P 22 で具体的に記述するように考えたい。

(羅臼町知床世界遺産登録推進協議会)

P26 の羅臼湖の記述において「立入防止ロープ柵等の維持管理」を「立入防止ロープ柵等の保護管理」を行うと記述して欲しい。

また、P 27 の熊越の滝の記述において「アクセス方法の改善と停車帯等の検討を行う」と記述して欲しい。ここは羅臼湖以上に車をとめるのに危険な地域である。

(座長) 事務局のほうはどうか

(事務局) 文章的にかえるのはよいと思うが、停車帯の設置は現実的には難しいと思う。

(知床斜里町観光協会) 停車帯の記述は難しいならば危険回避を行うとの表現がよいのでは。

(中易) P26の知床横断道路のところに道路付帯駐車場は原則認めないとあるが言い過ぎではないか。

(事務局) 建設時の関係協議会の経緯から、環境省では道路付帯駐車場は原則認めないという方針で取り扱っている。

(中易) ~の記述は読みづらい。読みやすさを考慮して番号付けする等整理したほうが良い。  
また先端部地区の基本計画の表現をよく参照してまとめたほうが良い。

## (2) その他

### 別添資料説明

下記の資料について概要を事務局が説明。

- ・知床関連機関の関係図
- ・知床連山における登山道の管理・整備に関する提言(専修大学 石川教授)
- ・観光利用状況の比較((財)知床財団)

### 今後の進め方

中央部地区基本計画の具体化に向けた作業部会の設置等今後のスケジュールについて事務局が説明。

【質疑応答】

(小林) 中央部地区は先端部地区と違い、多様な利用地区、利用拠点があり、利用の心得だけではなく、利用のルールという中で調整と心得を同時に考えるべき。また質の高いサービスのプログラム提供、さらにゲートとなる羅臼とウトロの施設、沿道の景観などデザイン的な面も議論していく必要がある。

(座長) 閉会。